

2022 年度重点施策

Vision2023 の総括と次の Vision の策定、活力に溢れ Sustainable な学会へ

Vision2023 に基づいてこれまで重点施策を掲げて活動が展開され、具体的な活動等に繋がって成果も挙げてきた。Vision2023 達成に向けての活動の総まとめの時期となる一方で、2019 年度 APCCChE において発出した札幌宣言では「Efficiency から Sufficiency」の考え方を提示し、未来に向けての新規な活動も始まっている。

* 科学技術とは、人々の幸福や社会のために資するように使われるものであるが、昨今では科学技術によってつくられた環境に社会や人間が合わさなければならなくなっている。「Sufficiency」は、より良い社会とは、を問うところから掲げられた。

2022 年度は下記 3 つの視点（学会の体制と機能、人材育成、イノベーション）での重点施策を掲げる。カーボンニュートラルの目標設定、AI・デジタル変革の進展など社会環境が変化する中、「Sufficiency」を意識し、目標を再確認し、スピード感を持って取り組んでいく。

さらに次の Vision2023 の総括に基づき、Vision2036 の策定に向けた活動を行う。

1) 化学工学会の体制・機能強化

化学工学と化学工学会を通じて科学技術の社会実装と普及に貢献するために、学会の体制の見直しと発信力の強化を図る。学会外の組織との連携強化も積極的に進める。

1-1) 学会運営の可視化と機能強化

1-2) 社会への貢献

1-3) SNS を含めた社会への発信力の強化

2) 人材育成、人材活用

社会が求める新たな化学工学の育成・実践基盤の構築に向けて

2-1) 「化学工学の教科書」の有効活用に向けた働きかけ

2-2) 幅広い世代が化学に触れ、興味を持つ仕掛け、活動の推進

2-3) SDGs, ダイバーシティの推進

3) イノベーションの提案と実践

カーボンニュートラル社会、デジタル革新による創造社会（Society5.0）などの実現には、ありたい未来社会の姿の構想からのバックキャストによるイノベーションが必要。

3-1) 再生可能エネルギーの本格導入に対する化学工学の貢献

3-2) カーボンニュートラルなプロセス・コンビナートの構築への化学工学の貢献

3-3) 化学製品設計・製造・プラントへの AI, DX の導入に向けた貢献

[1] 公益事業

1. 学術集会事業

(1) 本部大会

- | | | |
|-------------|----------------------|-----------------|
| ・第 87 年会 | (令和 4 年 3 月 16～18 日) | 神戸大学鶴甲第 1 キャンパス |
| | | ・オンライン併用開催 |
| ・第 53 回秋季大会 | (令和 4 年 9 月 14～16 日) | 信州大学長野（工学）キャンパス |
| | | ・オンライン併用開催 |

(2) 支部大会

- | | | |
|------------------|---------------|-----|
| ・支部大会(関東) | (2022 年 11 月) | 新潟県 |
| ・合同支部(関西・中国四国)大会 | (2022 年 12 月) | 岡山県 |

(3) 講演会、シンポジウム

- ・各種講演会、シンポジウム、講習会、技術交流会等の開催

2. 国際交流事業

(1) 国際化を促進する。

- ① 海外地域委員制度を実施し、各国の帰国留学生の連携を強化する。
- ② ホームページの国際関連記事の英文化をより一層進める。
- ③ アジア各国の化学工学会の動向に注目し、日本・韓国・台湾との合同シンポジウムを年1回、持ち回りで開催する。
- ④ 中国と日中化工シンポジウムを隔年交互に開催する。
- ⑤ アセアン諸国とは RSCE への参加を通じて積極的に交流し、APCChE への参加を促す。
- ⑥ 年会で併催の国際シンポジウム(International Chemical Engineering Symposia 2022, IChES2022)をより発展させる。当シンポジウムにて、化学工学会アジア国際賞の受賞者による受賞講演を行う。Proceedings の出版を併せて行う。
- ⑦ AIChE や DECHEMA とのジョイントシンポジウムを積極的に開催する。
- ⑧ 海外留学生交流会を引き続き産学連携センターと共同で開催する。

(2) 各国委員会

- ① 中国委員会
年4回の委員会の開催と講演会を開催する。
- ② 韓国委員会
日本主催の「化学工学に関する国際シンポジウム」を開催する。
2022年度第53回秋季大会にて日韓台合同シンポジウムを開催する。
- ③ 台湾委員会
2022年度第53回秋季大会にて日韓台合同シンポジウムを開催する。
相互の年会に積極的に参加する。
- ④ アセアン委員会
フィリピン、インドネシア、タイ、ベトナムとの交流を引き続き深め、バンコクで開催が予定されている RSCE(Regional Symposium on Chemical Engineering)には積極的に参加する。
AFChES にも積極的に参加し活動をサポートする。
- ⑤ 米国委員会
AIChE 年会にて、ジョイントセッションおよびレセプションを企画する。
- ⑥ ドイツ委員会
ドイツ主催の展示会(ACHEMA)にて、日独合同シンポジウムを企画する。
- ⑦ WCEC(World Chemical Engineering Council)／APCChE委員会
第19回APCChE Congress(当初8月中旬 クアラルンプール、マレーシア)は、2022年に延期となった(同じく8月中旬 クアラルンプール、マレーシア)。
WCCE11(11th World Congress of Chemical Engineering 2021)は、2022年に延期となった(日程調整中)。

WCEC:World Chemical Engineering Council

APCChE:Asia Pacific Confederation of Chemical Engineering Congress

3. 人材育成事業

- ・資格制度と技術者教育を両輪として連携させた教育体系の活動強化と技術者の生涯

にわたる学習を支援。

(1) 経営ゼミナール

- ・社会経済の動きに即応し、リーダーシップを発揮できる経営者の育成。
- ・第48回経営ゼミナール（2022年8月26, 27日名古屋、9月30, 10月1日習志野、10月28, 29日相生、11月25, 26日幕張）の実施。テーマ：「明日の日本を私が創る ～VUCA時代を牽引せよ！～」。
- ・経営ゼミナール特別講演会（第15回：5～6月頃、第16回：11/26）の実施。過去の受講者が集う場の提供による産産交流。
- ・現地開催を基本とし、グループ討議・懇親会は状況によりオンライン開催に変更して同様の結果を出せる環境を用意。

(2) 継続教育

- ・企業の若手技術者（入社～10年程度）が実務に直結した技術を学ぶ機会を提供。
- ・本会現有プログラム（プラントエンジニアリングコース、安全エンジニアリングコース、環境エンジニアリングコース）の実施、及び、日本粉体工業技術協会（粉体エンジニアリングコース）への協賛。
- ・講座の特徴を活かして、それぞれオンラインまたは対面で開催（年間約70日）。オンライン開催の場合も、少人数、かつ、通信負荷のチェックを兼ねてオリエンテーションを行うなど、一方通行にならないように工夫をして実施。
- ・受講者の理解度向上のため、事前アンケートによる受講目的把握。テキスト事前送付による予習促進。修了レポート実施と質問メール受付による復習をサポート。
- ・「化学工学技士（基礎）」を保有する若手社員を対象にした受講料割引制度の実施。
- ・受講と修了レポートの結果に応じて「継続教育ポイント」を付与。
- ・事後アンケート等に基づく既存プログラムのメンテナンスと、新規プログラムの拡充。
- ・修了レポートの提出率向上に向けた取り組み。

(3) 高等教育

- ・教育審査委員会より「JABEEと連携した活動」を継承。社会の要求に応じた高等教育機関の技術者教育を改革する活動を実施。
- ・企業の協力の下で、学生が企業で研究・実習するインターンシップを実施。学問と実務の橋渡し経験を得られる場を提供。
- ・化学工学系の学生を対象に「集まれ 化学工学に触れている学生諸子の会」（Zoomを用いたオンライン開催、時期は再検討）の実施と、インターンシップ受入企業間での情報交換と交流活動を実施。
- ・Chemical-Energy-Car Competition 2022（2022年3月28日、Zoomを用いたオンライン開催）の実施。
- ・SIS部会情報技術教育分科会「プロセスデザイン学生コンテスト」への共催。
- ・過去に実施した「化学工学教育シンポジウム」や「アンケート」を分析・反映し、「化学工学教育」体系のガイドライン策定に向けて活動。

(4) 未来人材育成

- ・「学生発表会」（2022年3月5日、Zoomを用いたオンライン開催）の実施と、2023年度（2023年3月4日）に向けた準備。
- ・「中高教諭とケミカルエンジニア交流のための見学講演会」を全国3箇所で開催（2022年7～8月、関東・関西・東海支部との共催）。中高教諭が工学への理解を深める機会を提供。
- ・「化学モノづくり動画」（夢・化学21）の新規教材作成と、既存教材の活用促進に向けた啓蒙活動。
- ・高校教諭との接点を拡大することを目的に、全国理科教育大会（2022年8月北海道）へ出展。

(5) その他

- ・キャリアに応じたプログラムの提供と各プログラムから次ステップへの案内、及び、会員増強への貢献。「化学工学技士（基礎）」から「継続教育」、「継続教育」から「化学工学技士」、「化学工学技士」から「化学技術者の知的生産性を追求するプログラム」「上席化学工学技士」、「化学技術者の知的生産性を追求するプログラム」から「経営ゼミナール」「上席化学工学技士」。

- ・「しごとの常識塾」の2巡目実施と、2019～2021年に開催した基本編、応用編、上級編で使用した資料をベースにした「参考書」作成に向けた準備。

4. 資格付与事業

(1) 資格制度運営

- ・「上席化学工学技士」の審査（一次書類審査 2022 年 6 月、二次論文審査 2022 年 7～9 月、三次面接審査 2022 年 10 月 15 日[予備日 16 日]MS Teams を用いたオンライン）に向けた運営、認定。
- ・「化学工学技士」の試験実施（2022 年 8 月 20 日東京・大阪）に向けた運営、認定。
- ・「化学工学技士（基礎）」の試験実施（2022 年 10 月 1 日全国各地会場）に向けた運営、認定。
- ・「化学工学技士（基礎）」取得者への「継続教育ポイント」付与。
- ・化学工学系の学生を対象に開催される「集まれ 化学工学に触れている学生諸子の会」（11～12 月頃）での資格制度及び活用事例の紹介。
- ・「化学工学技士（基礎）」合格と「継続教育」受講で得た「継続教育ポイント」を利用した無料での「化学工学技士」受験促進。
- ・2022 年度「化学工学技士（基礎）」「化学工学技士」「上席化学工学技士」合格者への激励講演会の実施。
- ・「化学工学技士（基礎）」と「化学工学技士」「上席化学工学技士」が集い、日本の未来を背負う若手技術者・研究者の卵とプロフェッショナルが意見交換できる場を提供。

5. 出版事業

(1) 学会誌

- ・冊子から電子版への移行を推奨する
- ・広告（会誌、WEB バナー）獲得の拡大
- ・出版経費削減に努める

(2) ホームページ

- ・行事欄の充実
- ・英文ホームページの充実

6. 受託事業

- ・ビジョン 2023 レビュー委員会により第 87 年会でビジョン 2023 レビュー報告を行い、次のビジョン 2036 委員会に引き継ぐ。
- ・産業界交流委員会では、若手会員への熟議継続と SDGs に関する活動を実施する。
- ・次世代エネルギー社会検討委員会では、関連の強い委員会との統廃合を視野に入れ新たな展開を目指す。
- ・社会実装学研究会では、化学プロセス、化学材料、未利用・代替 資源、システムに関わる技術の社会実装の事例（過去／現在進行形、成功／未成功／失敗／方向転換）を蓄積する活動を開始し、化学工学における社会実装論の基盤の構築を試みる。また、実行できていなかった執行部および会員の再構築を行い、これまでのように超大規模なメンバーを持つ研究会ではなく、① 新たにできてきている委員会や研究会（地域 CN, CCUS）を社会実装論の整備の視点からサポートするような活動方法 ② 1 つあるは 2 つ程度の部会とタイアップして活動しこれをまわしていくような活動方法も試行する。③ 状況が許せば、あらたに社会実装されたプロセスの見学会・講演会も企画を再開する。
- ・SDGs 検討委員会では委員 20 名ほどの体制で札幌宣言の具体化に取り組んでいる。第 87 年会で「SDGs 達成に向けた札幌宣言の実行ー多様な人材が活躍する未来の化学工場ー」を主催し、APCChE2022 で SDGs に関するシンポジウムを企画、第 53 回秋季大会でもシンポジウムを企画する。
- ・AI・IoT 委員会では第 87 年会報告をもって委員会を廃止し、2022 年 4 月に SIS 部会 PSE 分科会に移行する。
- ・CCUS 研究会では、CO2 回収・利用・貯留（CCUS）技術の社会実装を検討するためのモ

データベース評価基盤を整備し、シンポジウム等で成果を公開する。

- ・CSR 委員会では、化学工学および、化学工学会の社会的価値の向上と札幌宣言” Sufficiency” の具現化を検討する。地域連携カーボンニュートラル推進委員会等との連携をとり、年会および秋季大会において、ビジョンシンポジウムの開催を行い、会員と共に化学工学会の将来像についての議論を深める。
- ・地域連携カーボンニュートラル推進委員会では、① 分科会と WG の連携強化により、地域産業および地域コミュニティとの融合から、地域や時系列を考慮した 2050 年カーボンニュートラル社会に向けたシナリオ構築を行う。② 第 87 年会および第 53 回秋季大会にて、特別シンポジウム（一般公開）を主催して、化学工学が挑む未来社会について情報発信する。③ コンビナート連携推進機構との連携強化により、具体的なケーススタディ、カーボンニュートラルに必要な技術や学問体系の展開・深化をリードする。

7. 技術相談事業

- ・年会に於ける産主導の産業セッション開催による産業人の年会参加推進
- ・常置委員会の活動支援による産学官交流促進
- ・法人会員向け情報発信強化による産業人の学会活動への参加促進
- ・技術相談対応態勢 検討と試行

8. 審査事業

- ・プレゼンス向上に係わる企画立案。海外出版社への移行
- ・和文誌の投稿記事増加の促進

9. 表彰事業

- ・名誉会員候補者の推薦
- ・2022 年度化学工学会賞の表彰

10. 男女共同参画事業

- (1) 講演会・セミナーの開催
 - ・年会において女性賞受賞記念講演を含む「女性技術者フォーラム」開催
 - ・秋季大会において女性技術者ネットワークを開催
- (2) 情報発信
 - ・会誌「化学工学」の「広がれ！ダイバーシティ」に寄稿者を推薦
→キャリア形成に関する紹介を行う記事を掲載
- (3) 交流・意見交換の場の提供
 - ・「女性技術者ネットワーク」「世界女性朝食会」を継続的に開催
 - ・オンラインシステムを活用し交流の場を広げる
- (4) 参画支援活動
 - ・本部大会期間中における保育サービスの実施（現地・在宅近くでの保育）
- (5) 対外活動
 - ・男女共同参画学協会連絡会の参加
 - ・支部・部会・他委員会との連携
 - ・他学協会行事への積極的参加による活動アピール

[2] 収益等事業

1. 展示出展事業

- ・INCHEM TOKYO 2021 の総括と今後への提言をまとめ、早期に INCHEM TOKYO 2023 実行体制にバトンタッチを行い、実施企画・計画を進める。
- ・関西地区 2 回目となるプラントショー OSAKA2022 を、2022 年 12 月 7 日（水）～9 日（金）@インテックス大阪で日本能率協会と共催する。同時開催メンテナンス・レジリエンス

2. 相互扶助事業

- (1) 支部・懇話会
 - ・地域CT賞の表彰
- (2) 部会
 - ・本部大会等での魅力あるシンポジウム、討論会の実施
 - ・産学官連携の推進
 - ・部会CT賞の表彰
 - ・情報発信力の強化(部会HP等)
- (3) 会員増強
 - ・法人会員に属する社員の個人会員への勧誘
 - ・学生会員から正会員への資格変更の促進
 - ・ジュニア会員新設
- (4) 戦略推進事業
 - ・高度生産システム検討委員会では、2019年に開始した石油精製プロセス技術革新分科会を2022年3月で終了し、最終報告書をまとめる。

[3] 刊行物

1. 定期刊行物

- (1) 「化学工学」誌 第86巻No.1～12号(12冊)
 - ・ページ数：70ページ/号平均
- (2) 「化学工学論文集」第48巻No.1～6
 - ・ページ数：40ページ/号平均
 - 電子版：奇数月発行6回/年
 - 冊子版：1、3月号、5、7月号、9、11月号を合本として年3回発行
- (3) “JOURNAL OF CHEMICAL ENGINEERING OF JAPAN” 第55巻No.1～12
 - ・ページ数：80ページ/号平均
 - 電子版：毎月発行12回/年
 - 冊子版：1～3月号、4～7月号、8～12月号を合本として年3回発行

[4] 支部事業

別紙「2022年度各支部事業計画書」参照

[5] 部会事業

別紙「2022年度各部会事業計画書」参照

2022年度支部事業計画書

(自2022年3月1日～至2023年2月28日)

公益社団法人化学工学会

〔 〕共催行事・（ ）地区懇話会名等・○印日程未定

	北 海 道 支 部		東 北 支 部		関 東 支 部	
2022年3月					3・7 4 5 9 ○	最近の化学工学講習会70 第6回幹事会 第24回学生発表会 つくば学生研究交流会(つくば化学技術懇話会) 第1回幹事会(新潟地方化学工学懇話会)
4月			○ ○ ○	(岩手)岩手化学工学懇話会総会 (東北支部特別講演会(東北大)) (宮城)宮城化学工学懇話会総会(東北大)	22 ○	第1回運営会議 第8回ものづくり技術セミナー
5月	○	令和4年度第1回常任幹事会(北海道大 or Zoom)	○ ○ ○ ○ ○ ○	(青森)青森化学工学懇話会総会 (福島)福島化学工学懇話会総会 (福島)福島化学工学懇話会講演会 (山形)山形化学工学懇話会総会 (山形)山形化学工学懇話会講演会	27	第1回幹事会
6月			○ ○ ○ ○	第24回先端研究発表会(東北大)(東北支部・宮城化学工学懇話会共同主催) (秋田)秋田化学工学懇話会総会 (秋田)第52回ケミカルエンジニアリング交流会	17 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	第64回関東技術サロン・第2回幹事会 第8回初心者のための化学工学入門コース(3日間) バイオプロセス講演見学会 第26回旬の技術見学講演会 FB技術講習会 総会・理事会(新潟地方化学工学懇話会) 第152回講演会(新潟地方化学工学懇話会) 総会・記念講演会(北関東地区化学技術懇話会)
7月	○ ○	令和4年度第1回役員会(北海道大 or Zoom) 令和4年度見学会および講演会<第165回講演会>	○	(宮城)第66回プロセス設計技術講演会・見学会(宮城)	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	第28回イブニングセミナー 第3回リスクに基づくプロセス安全入門 中高教諭とケミカルエンジニア交流見学講演会 第23回食品微細科学研究会講演会(つくば化学技術懇話会) 幹事会・総会(つくば化学技術懇話会) 第75回化学工学基礎講習会「化学工学入門1」(新潟地方化学工学懇話会) 第76回化学工学基礎講習会「化学工学入門2」(新潟地方化学工学懇話会) 第1回幹事会・第192回講演会(神奈川技術懇話会)
8月			○	(福島)夢化学21(福島高専)	19 ○	第2回運営会議 ホットな話題の講習会
9月			17-18 ○ ○ ○ ○	[令和4年度化学系学協会東北大会] (日本大学工学部)(東北支部共催) 第30回東北支部若手の会セミナー 第27回東北ジョイント夏季セミナー 東北支部令和4年度第1回役員会	16 ○ ○ ○ ○	第3回幹事会 第26回高校生のための現代寺子屋講座 第2回幹事会(新潟地方化学工学懇話会) 第2回幹事会(神奈川技術懇話会)
10月			○ ○ ○ ○ ○ ○	第34回へいばなコンファランス(東北支部協賛) 日本化学会東北支部第19回石炭化学コロキウム(秋田化学工学懇話会共催) 日本エネルギー学会東北支部講演会(秋田化学工学懇話会共催、東北支部協賛) (青森)青森化学工学懇話会講演会(東北支部協賛) (福島)福島化学工学懇話会工場見学会 (宮城)第67回プロセス設計技術講演会・見学会(岩手)	28 ○ ○ ○ ○ ○	第3回運営会議 第26回基礎化学工学講習会(6日間) 学生会(工場見学、企業講演会・Workshop) 第77回化学工学基礎講習会(新潟地方化学工学懇話会) 工場見学会(北関東地区化学技術懇話会)
11月	○ ○	第23回アカシアセミナー<第166回講演会> [2021年度微粒子工学講演会]	○ ○ ○	(秋田)第53回ケミカルエンジニアリング交流会 (岩手)2022年度岩手地区講演会 (岩手)第31回化学工学一関セミナー(一関高専)] (東北支部共催)	18 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	第65回関東技術サロン・第5回幹事会 講演会(つくば化学技術懇話会) 第54回CEシリーズ講習会 支部大会 学生賞 The Researcher招待講演 第78回化学工学基礎講習会「化学工学入門3」(新潟地方化学工学懇話会) 第79回化学工学基礎講習会「化学工学入門4」(新潟地方化学工学懇話会)
12月	○	令和4年度第2回常任幹事会(北海道大 or Zoom)	○ ○	(福島)第13回福島地区CEセミナー(日大工学部)(東北支部協賛) (山形)山形化学工学懇話会技術講演会	23 ○ ○ ○ ○	第4回運営会議 若手の会・後援事業 第3回幹事会(新潟地方化学工学懇話会) 第3回幹事会(神奈川技術懇話会) 技術サロン(北関東地区化学技術懇話会)
2023年1月	○ ○	第32回化学工学・粉体工学研究発表会(北見 or Zoom) 令和4年度第2回役員会(北見工業大 or Zoom)	○ ○	東北支部令和4年度第2回役員会(宮城) (宮城)第68回プロセス設計技術講演会・見学会(宮城)	20 ○ ○	第5回幹事会 最近の化学工学講習会71 神奈川地区見学講演会
2月					○ ○ ○ ○ ○ ○	クローズアップシリーズ2022 2022年度コンビナート講習会 企業先端技術講演会2023 (新潟地方化学工学懇話会) つくば学生研究交流会(つくば化学技術懇話会) 第4回幹事会・第193回講演会(神奈川技術懇話会) 研修懇親会(北関東地区化学技術懇話会)

(自2022年3月1日～至2023年2月28日)

公益社团法人化学工学会

[illegible]

2022 年度 部会事業計画書

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| 1. 国際関連事業 | 2. シンポジウム・講演会などの行事 |
| 3. 本部大会・支部行事関連行事 | 4. 講習会・セミナーなどの啓発活動 |
| 5. 出版物・特集号などの化学工学出版への寄与 | 6. 受託事業の推進 |
| 7. 部会ニュース・メールマガジンなどの発行 | 8. 特記事項 |

(記載事項のない項目は掲載省略; 年号記載ないものは 2022 年 3-12 月、2023 年 1-2 月)

バイオ部会

1. 国際関連事業

- 20th BSSS2020(BioSeparation Symposium & School) 第 20 回バイオ分離シンポジウム (12 月頃、山口大学)
開催年月日: 12 月頃
会場: 山口大学工学部
オーガナイザー: 山本修一(山口大)、Ales Podgornik (University of Ljubljana)
- THE 6TH INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON FUELS AND ENERGY (東広島市)
開催年月日: 未定
会場: 東広島芸術文化ホール、またはオンライン
オーガナイザー: 中島田 豊(広島大学)ほか
主催: 広島大学エネルギー超高度利用拠点
共催: 化学工学会(バイオ部会環境生物分野専門分科会としてオーガナイザー参加)

2. シンポジウム・講演会などの行事

- 2022 年度日本食品工学会秋季見学会・講演会 (11 月頃)
開催年月日: 11 月頃を予定
会場: 未定
参加者: 40 名程度を見込み
発表件数: 4 題程度の予定
オーガナイザー: 未定
主催: 日本食品工学会
共催: 化学工学会バイオ部会
- 細胞アッセイ研究会シンポジウム (1 月頃)
開催年月日: 1 月頃
会場: 未定
主催: バイオ部会・細胞アッセイ研究会
共催: 未定

3. 本部大会・支部行事関連行事

- 第 53 回秋季大会部会【横断型シンポジウム】 (9 月、信州大学)
バイオマス利活用技術に関わる横断シンポジウム(仮)
開催年月日: 9 月 14~16 日のいずれか1日
会場: 信州大学長野(工学)キャンパス
参加者: 100 人程度
発表件数: 未定(うち招待講演 1~2 件)
オーガナイザー: 松村幸彦(広島大学)、中島田豊(広島大学)
主催: バイオ部会、環境生物分野専門分科会、エネルギー部会
共催: 未定
- 化学工学会第 53 回秋季大会【バイオ部会シンポジウム】 (9 月、信州大学)
ウィズ・アフターコロナに寄与する生物化学工学(仮)
開催年月日: 9 月 14~16 日のいずれか1日
会場: 信州大学長野(工学)キャンパス
参加者: 50 人程度
発表件数: 未定(うち招待講演 1~2 件)

オーガナイザー: 上田宏(東工大)

主催: バイオプロセス専門分科会

共催: 未定

- 化学工学会第53回秋季大会【バイオ部会シンポジウム】 (9月、信州大学)
次世代バイオ分離プロセス

開催年月日: 9月14～16日のいずれか1日

会場: 信州大学長野(工学)キャンパス

参加者: 50人程度

発表件数: 未定(うち招待講演1～2件)

オーガナイザー: 山本修一(山口大)、吉本則子(山口大)

主催: バイオプロセス専門分科会

共催: 未定

- 化学工学会 第53回秋季大会【バイオ部会シンポジウム】 (9月、信州大学)

開催年月日: 9月14～16日のいずれか1日

会場: 信州大学長野(工学)キャンパス

参加者: 50人程度

発表件数: 未定

オーガナイザー: 未定

主催: メディカル分野専門分科会

共催: 未定

- 化学工学会 第53回秋季大会【バイオ部会シンポジウム】 (9月、信州大学)

開催年月日: 9月14～16日のいずれか1日

会場: 信州大学長野(工学)キャンパス

参加者: 50人程度

発表件数: 未定(うち招待講演1～2件)

オーガナイザー: 戸谷 吉博(大阪大学)

主催: 生物情報分野専門分科会

共催: 未定

- 化学工学会 第53回秋季大会【バイオ部会ポスターセッション】 (9月、信州大学)

開催年月日: 9月14～16日のいずれか1日

会場: 信州大学長野(工学)キャンパス

参加者: 未定

発表件数: 未定

オーガナイザー: 未定

主催: 食糧・食品生産分野専門分科会

共催: 日本食品工学会(予定)

7. 部会ニュース・メールマガジンなどの発行

- Newsletter No.55 (6月発行)
- Newsletter No.56 (12月発行)

8. 特記事項

- バイオ部会 2022年度総会 (3月17日予定)
- バイオ部会オンライン情報交換会 (3月17日予定)
- バイオ部会 2022年度第1回役員会 (第53回秋季大会会期中予定)
- バイオ部会 2022年度第2回役員会 (2023年2月中予定)

超臨界流体部会

1. 国際関連事業

- 超臨界流体部会 20周年記念国際セッション (主催) (3月17日～18日、オンライン)
～2022年度年会 国際シンポジウム(ICChES2022)における特別セッション企画～
[K-3] Supercritical Fluid Division 20th Anniversary International Session
17/03/2022 – 18/03/2022, Virtual Meeting
- 関連国際シンポジウムなどへの協賛

2. シンポジウム・講演会などの行事

- 超臨界流体部会第21回サマースクール (8月)

3. 本部大会・支部行事関連行事

- 第87年会にあわせて併催の IChES2022 における特別セッション (3月、神戸大学)
[K-3] Supercritical Fluid Division 20th Anniversary International Session
2022/3/16-18, @神戸大学
- 第53回秋季大会
超臨界流体部会シンポジウムの開催 (9月)

4. 講習会・セミナーなどの啓発活動

- 超臨界流体・基礎セミナーの開催 (3月下旬、オンライン)

5. 出版物・特集号などの化学工学会出版への寄与

- 年鑑の担当・執筆、編集委員会への参加、Topic 投稿
化学工学年鑑 2022 (10月)

6. 受託事業の推進

- プロジェクト研究の企画検討 (チーム編成)

7. 部会ニュース・メールマガジンなどの発行

- ニュースレターの発行 (年2～3回)
SCF NEWSLETTER No.34: 7月、メール配信
SCF NEWSLETTER No.35: 12月、メール配信

8. 特記事項

- 部会ホームページの全面変更、会計システムへの対応
超臨界流体部会 第1回役員会: (3月年会初日、リモート)
超臨界流体部会 第2回役員会: (9月秋季大会初日、リモート)

エネルギー部会

2. シンポジウム・講演会などの行事

- 第22回バイオマス部会・研究会合同交流会 (バイオマス分科会) (12月予定)
- エネルギー部会シンポジウム (部会主催) (秋ごろを予定)

3. 本部大会・支部行事関連行事

- 第53回秋季大会におけるシンポジウム開催 (熱利用分科会、予定) (9月、信州大学)
- 第53回秋季大会におけるシンポジウム開催 (部会横断型シンポジウム
エネルギー部会、材料界面部会、反応工学部会 共催) (9月、信州大学)
「材料開発からシステムまで俯瞰して考える電池・エネルギー変換・貯蔵技術 (口頭発表部門およびポスター発表部門)」(仮) (エネルギー変換デバイス・システム分科会、予定)
- 第53回秋季大会におけるシンポジウム開催 (炭素系資源利用分科会、予定) (9月、信州大学)
- 第53回秋季大会におけるシンポジウム開催 (バイオマス分科会、予定) (9月、信州大学)

4. 講習会・セミナーなどの啓発活動

- ・ 第 39 回熱利用分科会研究会(開催日時, 場所未定) (熱利用分科会)
- ・ 第 40 回熱利用分科会研究会(開催日時, 場所未定) (熱利用分科会)
- ・ 熱利用分科会第 11 回若手セミナー(開催日時, 場所未定) (熱利用分科会)
- ・ オンライン講習会 1 回(炭素系資源利用分科会, 予定)
- ・ 講演見学会(バイオマス分科会, 秋頃を予定)

7. 部会ニュース・メールマガジンなどの発行

- ・ 【エネルギー部会メール配信】部会員に対して主催・共催・協賛行事や人事公募などについて随時メール配信
- ・ 【エネルギー部会 Web】分科会の目的, 主催・共催行事のスケジュール, 行事報告書を公開

安全部会

2. シンポジウム・講演会などの行事

- ・ 安全講演会 (11 月)

3. 本部大会・支部行事関連行事

- ・ 秋季大会 (9 月)

4. 講習会などの啓発活動

- ・ 安全サロン
 - 第 1 回安全サロン(2021年度計画分) (1 月)
 - 第 2 回安全サロン (3 月)
 - 第 3 回安全サロン (5 月)
 - 第 4 回安全サロン (7 月)
 - 第 5 回安全サロン (9 月)
 - 第 6 回安全サロン (11 月)
 - 第 1 回安全サロン (2023 年)
- ・ プロセス安全に関するセミナー
 - LOPA 翻訳発刊記念講演会 (6 月)
 - メトリクス TD 発刊 5 周年記念講演会 (7 月)
 - HAZOP/LOPA 手法修得セミナー (8 月)
 - 第 7 回非定常 HAZOP セミナー (10 月)
 - 新 PSM ガイドライン構築 WG の発刊記念講演会 (12 月)
 - 第 29 回定常 HAZOP セミナー (2023 年 2 月)
- ・ ノンテクニカルスキル教育に関するセミナー
 - 第 3 回体験教室意見交換会 (5 月)
 - 第 12 回行動特性研究会 (6 月)
 - 第 15 回ノンテクニカルスキル講座 (9 月)
 - 第 4 回体験教室意見交換会 (11 月)
- ・ web ノンテクニカルスキル教育の体験教室とコンテンツ提供教室

2020 年 9 月に開始したノンテクニカルスキル体験教室は 8 教室、コンテンツ提供教室は 6 教室随時お申込み受付して開催中(前年度より継続)
- ・ 事故から学ぶオンデマンドコンテンツ配信事業

2021 年 8 月に 8 コンテンツ、2022 年 1 月に 5 コンテンツリリースし、随時お申込み受付中(前年度より継続)

5. 出版物・特集号などの化学工学会出版への寄与

- ・ LOPA 翻訳発刊は丸善出版から 6 月に出版
- ・ 新 PSM ガイドラインは化学工業日報社から 12 月に出版

7. 部会ニュース・メールマガジンなどの発行

- ・ 2 月に独立した HP でイベント発信、FB でニュース発信

8. 特記事項

- ・ BPM アプリケーション・ソフトウェア要求仕様策定 WG
- ・ 事故解析 WG
- ・ LOPA 翻訳 WG
- ・ 新 PSM ガイドライン構築 WG
- ・ ノンテクニカルスキル枠組みWGが活動中

エレクトロニクス部会

2. シンポジウム・講演会などの行事

- ・ シンポジウム(予定) (12 月)

3. 本部大会・支部行事関連行事

- ・ 第 53 回秋季大会「エレクトロニクス材料とプロセス」 (9 月)

4. 講習会・セミナーなどの啓発活動

- ・ シンポジウム要旨集のホームページへの掲載

5. 出版物・特集号などの化学工学会出版への寄与

- ・ 「化学工学」年鑑への寄稿
- ・ 化学工学会誌小特集の提案・寄稿

7. 部会ニュース・メールマガジンなどの発行

- ・ 部会ニュースの配信とホームページへの掲載

8. 特記事項

- ・ 幹事会および幹事会講演 6 回開催予定
- ・ 幹事会講演の部会員以外(一般)への公開

粒子・流体プロセス部会

2. シンポジウム・講演会などの行事

- ・ 部会セミナー
- ・ 機能性粉体プロセス研究会(粉体プロセス分科会)
- ・ 粒子流体プロセス技術コース 2022(流動層分科会)
- ・ 気液固分散工学サロン(第 24 回, 第 25 回)(気泡・液滴・微粒子分散工学分科会)
- ・ 令和 4 年度ミキシング技術分科会夏期セミナー(ミキシング技術分科会)
- ・ 第 31 回東日本地区ミキシング技術サロン(ミキシング技術分科会)
- ・ 第 32 回関西東海地区ミキシング技術サロン(ミキシング技術分科会)
- ・ 第 27 回九州地区ミキシング技術サロン(ミキシング技術分科会)

3. 本部大会・支部行事関連行事

- ・ 第 53 回秋季大会シンポジウム 部会セッション (9 月)

4. 講習会・セミナーなどの啓発活動

- ・ 第 10 回若手研究者・技術者を対象とした工場見学および交流会
- ・ 熱物質流体工学セミナー2022 (熱物質流体工学分科会)

7. 部会ニュース・メールマガジンなどの発行

- ・ 部会ニュースレター(26号、27号)(部会)
- ・ 気液固分散工学ニュースレター(26号、27号)(気泡・液滴・微粒子分散工学分科会)
- ・ ミキシング技術分科会会誌 Mixing Technology Now No. 27 の発行(ミキシング技術分科会)

8. 特記事項

- ・ 部会賞の公募、審査、授与および記念講演会の開催

システム・情報・シミュレーション部会

1. 国際関連事業

- ・ 第 87 年会国際シンポジウム
CO₂ Separation and Utilization in Aseania 2022 (3月16日、神戸大学)
- ・ DYCOPS(6月14～17日、Busan, South Korea) (6月14日～17日、韓国)
- ・ PSE2021+(6月19～23日、Kyoto, Japan) (6月19日～23日、京都)
- ・ AdCONIP(8月7～9日、Vancouver, Canada) (8月7日～9日、カナダ)

2. シンポジウム・講演会などの行事

- ・ プラントオペレーション分科会 第 160 回研究会 (3月)
- ・ 情報技術教育分科会研究会 (4月)
- ・ プラントオペレーション分科会 第 161 回研究会 (4月)
- ・ プロセスシステム工学分科会 第 1 回研究会 (5月予定)
- ・ システム医薬分科会研究会 (6月)
- ・ プラントオペレーション分科会 第 162 回研究会 (7月)
- ・ ダイナミックプロセス応用分科会研究講演会 (7月)
- ・ プロセスシステム工学分科会 第 2 回研究会 (7月予定)
- ・ 情報技術教育分科会研究会 (9月上旬)
- ・ 情報技術教育分科会研究会 (9月、秋季大会会期中)
- ・ プラントオペレーション分科会 第 163 回研究会 (10月)
- ・ プロセスシステム工学分科会 第 3 回研究会 (10月予定)
- ・ ダイナミックプロセス応用分科会研究講演会 (11月)
- ・ 情報技術教育分科会研究会 (12月)
- ・ システム医薬分科会研究会 (12月)
- ・ プロセスシステム工学分科会 第 4 回研究会 (12月予定)
- ・ プラントオペレーション分科会 第 164 回研究会 (2023年1月)
- ・ 情報技術教育分科会研究会 (2023年2月)
- ・ プロセスシステム工学分科会 第 5 回研究会 (2023年2月予定)

3. 本部大会・支部行事関連行事

- ・ 第 53 回秋季大会シンポジウム (9月、信州大学)
- ・ 情報技術教育分科会第 21 回プロセスデザイン学生コンテスト (9月16日)
- ・ ダイナミックプロセス応用分科会シンポジウム(タイトル未定)
- ・ システム医薬分科会シンポジウム(タイトル未定)

4. 講習会・セミナーなどの啓発活動

- ・ 第 38 回プラントオペレーションに関する現場監督者セミナー

5. 出版物・特集号などの化学工学会出版への寄与

- ・ 化学工学年鑑(10月号)執筆

7. 部会ニュース・メールマガジンなどの発行

- ・ 部会員(約 300 名)宛のメールマガジンを不定期に発行予定(年間 15～20 通程度)
- ・ 部会ホームページの更新および拡充

8. 特記事項

- ・ SIS 部会幹事会 (3 月、神戸大学)
- ・ SIS 部会幹事会 (9 月、信州大学)
- ・ SIS 部会 研究奨励賞 審査および授与 (3 月)
- ・ SIS 部会 技術賞 審査および授与 (3 月)
- ・ SIS 部会 研究奨励賞 審査および授与 (9 月)
- ・ SIS 部会 技術賞 審査および授与 (9 月)

反応工学部会

1. 国際関連事業

- ・ International Conference on Catalysis in Membrane Reactors 15 (7 月 31 日～8 月 4 日、早稲田大学)

2. シンポジウム・講演会などの行事

- ・ 第 22 回化学工学会反応工学部会若手会(反好会)講演会 (3 月)
- ・ 第 9 回講演会(CVD 反応分科会) (5 月)
- ・ 第 36 回シンポジウム(CVD 反応分科会) (6 月)
- ・ 分科会賛助会員の集い「触媒反応工学 見学・講演会」:主催 触媒反応工学分科会 (8 月)
- ・ 第 23 回化学工学会反応工学部会若手会(反好会)講演会 (9 月)
- ・ 第 24 回大気圧プラズマ関連の講演会・見学会 (9 月)
- ・ 第 24 回微細気泡関連の講演会 (10 月、千葉工業大学)
- ・ 無機膜研究会 (10 月頃、COVID-19 の状況により中止も検討)
- ・ 2022 年度ソノプロセス分科会講演会 (10 月)
- ・ 日本ソノケミストリー学会:第 31 回ソノケミストリー討論会(ソノプロセス分科会と共催) (10 月)
- ・ 2022 年度マイクロ化学プロセス分科会主催講演会・研究室見学会 (11 月頃)
- ・ 第 37 回シンポジウム(CVD 反応分科会) (11 月)
- ・ 第 17 回反応装置・プロセスシンポジウム:主催 触媒反応工学分科会 (11 月頃)
- ・ 反応分離シンポジウム 2022 (12 月頃)
- ・ 第 5 回ソノプロセス分科会見学会 (2023 年 1 月)
- ・ 第 38 回シンポジウム(CVD 反応分科会) (2023 年 2 月)

3. 本部大会・支部行事関連行事

- ・ IChES2022 にて国際シンポジウム
「K-4 Recent Research and Development of Micro Chemical Process and Synthesis」 (3 月)
- ・ 最近の化学工学講習会「進化するファインバブル技術と応用展開」(化学工学会関東支部と協賛) (3 月)
- ・ 第 87 年会オーガナイズドセッション(CVD 反応分科会オーガナイズ) (3 月 18 日)
- ・ 第 53 回秋季大会にてマイクロ化学プロセス分科会シンポジウム (9 月)
- ・ 部会合同シンポジウム「プラズマプロセスによる化学工学の新展開」 (9 月)
(第 53 回秋季大会で熱工学部会、粒子・流体プロセス部会と共催)
- ・ 第 53 回秋季大会にて CVD 反応分科会による部会横断型シンポジウム (9 月)
- ・ 第 8 回ファインバブル学会連合シンポジウム(場所未定)(ファインバブル学会連合と共催) (11 月)

4. 講習会・セミナーなどの啓発活動

- ・ 第 61 回オーロラセミナー:主催 触媒学会北海道支部、共催 触媒反応工学分科会 (7 月頃)
- ・ 第 5 回講習会(CVD 反応分科会) (10 月)
- ・ 第 16 回触媒劣化セミナー:主催 触媒反応工学分科会 (12 月頃)

5. 出版物・特集号などの化学工学会出版への寄与

- ・ 化学工学年鑑 (2022) の執筆

7. 部会ニュース・メールマガジンなどの発行

- ・ 反応分離ニュース (12 月頃)
- ・ 反応工学会触媒反応工学分科会 2022 年度報告書 ―活性劣化に関する報告書― 発行 (2023 年 2 月頃)
- ・ マイクロ化学プロセス分科会、ニュースレターの送付(年 2 回を予定)
- ・ マイクロ化学プロセス分科会、Facebook 上での準公式 HP による各種啓発活動

8. 特記事項

- ・ 第 3 回マテリアル・ファブリケーション・デザインセミナー(ソノプロセス分科会と協賛)(沖縄・オンライン併用) (3 月)
- ・ 第 13 回日本セラミックス協会マテリアル・ファブリケーション・デザイン研究会
(ソノプロセス分科会と協賛) (3 月、オンライン)
- ・ マイクロ化学プロセス分科会幹事会 (3 月、9 月予定)
- ・ 反応工学会若手会(反好会)幹事会 (3 月、9 月)
- ・ 触媒反応工学分科会幹事会 (3 月、9 月予定)
- ・ 国際学会での学生発表補助(反応分離分科会)
- ・ CVD 反応分科会幹事会 (3 月、5 月、9 月、11 月、2023 年 2 月)
- ・ 第 77 回 CVD 研究会共催 (8 月)
- ・ 第 78 回 CVD 研究会共催 (12 月)

環境部会

1. 国際関連事業

- ・ 第 87 年会・International Chemical Engineering Symposia においてシンポジウム「The Cutting-Edge Environmental Biotechnology: Challenges for Sustainable Society and Global Warming」を主催 (3 月 18 日、神戸大学)

2. シンポジウム・講演会などの行事

- ・ 第 87 年会においてシンポジウム「循環型社会実現のための結合・分解の精密制御に向けた動静脈分野連携・融合の促進」を共催 (3 月 18 日、神戸大学)
- ・ 第 34 回環境工学連合講演会「環境工学の 22 世紀」共催 (5 月 31 日、日本学術会議講堂)
- ・ 各分科会において見学会等を実施予定

3. 本部大会・支部行事関連行事

- ・ 化学工学会秋季大会において「環境部会シンポジウム」を主催

4. 講習会・セミナーなどの啓発活動

- ・ 化学工学 11 号特集 化学工学年鑑 2022(環境化学工学)

7. 部会ニュース・メールマガジンなどの発行

- ・ 部会関連の情報を適宜、部会員全体のメーリングリストにて提供

8. 特記事項

- ・ 環境部会 2022 年度総会 (3 月、ハイブリッド)
- ・ 環境部会 2022 年度幹事会 (9 月、ハイブリッド)

材料・界面部会

1. 国際関連事業

- ・ IChES 2022 でのアジア国際賞受賞講演を含む以下の 2 セッションを企画・運営する。 (3 月)

- “Materials development innovated by fluid flow“
- “Recent Researches on Material Structure Control Technology for Functional Expression (tentative)”
- ・ 2022 年 日韓材料シンポジウム 開催時期、会場は調整中

2. シンポジウム・講演会などの行事

- ・ 共通基盤シンポジウム 2022
- ・ 化学システム工学討論会 2022 (夏-秋頃)
- ・ 塗布技術分科会 第 68 回定例会合 (ハイブリッド: 関東)
- ・ 塗布技術分科会 第 68 回定例会合 (ハイブリッド: 関西)
- ・ 塗布技術分科会 第 69 回定例会合 (ハイブリッド: 関東)
- ・ 塗布技術分科会 第 69 回定例会合 (ハイブリッド: 関西)
- ・ 第 9 回 マイクロカプセル研究会講演会
- ・ 第 15 回 機能性微粒子分科会セミナー
- ・ 晶析操作の基礎と実践 協賛予定(晶析技術分科会)
- ・ 第 7 回ソフトマター工学分科会講演会

3. 本部大会・支部行事関連行事

- ・ 第 53 回秋季大会 材料・界面部会シンポジウム 材料・界面討論会 ～材料創製と界面研究の最前線～ 口頭、ポスター(予定)
- ・ 第 53 回秋季大会 材料・界面部会シンポジウム <機能性微粒子分科会シンポジウム>(予定)
- ・ 第 53 回秋季大会 材料・界面部会シンポジウム <晶析技術分科会シンポジウム>(予定)
- ・ 第 53 回秋季大会 材料・界面部会シンポジウム <ソフトマター工学分科会シンポジウム>(予定)
- ・ 特別講演会<塗布技術分科会>

4. 講習会・セミナーなどの啓発活動

- ・ 2022年度晶析技術分科会セミナー

7. 部会ニュース・メールマガジンなどの発行

- ・ 【材料・界面部会ニュース】部会員に対して随時メール配信
- ・ 【晶析技術分科会ニュース】晶析技術分科会会員に対して配信

基礎物性部会

1. 国際関連事業

- ・ 2022 AIChE Annual Meeting に部会員を派遣し、情報交換と国際交流を図る。 (11 月 13 日～18 日)

2. シンポジウム・講演会などの行事

- ・ 分離技術会年会 2022(協賛)
- ・ 分離技術会等の関連する学会と共催および協賛の講演会等を開催する。

3. 本部大会・支部行事関連行事

- ・ 第 24 回学生発表会 (3 月 5 日)
- ・ 第 87 年会 (3 月 16 日～18 日)
- ・ 第 53 回秋季大会: 部会シンポジウム (9 月 14 日～16 日)

4. 講習会・セミナーなどの啓発活動

- ・ 基礎物性部会ミニ講演会(オンラインで定期的に実施予定)
- ・ 蒸留フォーラム 2023(協賛)
- ・ 分離技術会等の関連する学会と協力して、企業研究者を対象とした物性測定技術、推算法の最新技術およびその応用に関する講習会を協賛・共催する。

5. 出版物・特集号などの化学工学会出版への寄与

- ・ 化学工学年鑑 2022

7. 部会ニュース・メールマガジンなどの発行

- ・ 部会員に向けた部会ニュースレターを配信し、部会員間の情報交換と部会事業への積極的な参加を促す。

分離プロセス部会

1. 国際関連事業

- ・ CO₂ Separation and Utilization in Aseania 2022(第 87 年会:分離プロセス部会) (3 月)
化学工学会第 87 年会と併催される IChES シンポジウムにて、CO₂ 分離とその利用に関する国際シンポジウムを開催する。アジア国際賞受賞者によるご講演を含む。

2. シンポジウム・講演会などの行事

- ・ 第 18 回分離プロセス部会基礎講座(10 月予定、吸着・イオン交換分科会担当予定) (10 月予定)
分離プロセス部会では、この分野の第一線で活躍されている研究者・技術者を講師に招き、分離プロセスの基礎理論を平易に解説する「分離プロセス基礎講座」を年一回程度のペースで開催している。
- ・ 第 17 回分離プロセス部会講演会及び見学会(時期未定、蒸留分科会担当予定)
分離プロセス部会では、年に一回のペースで、分離プロセスの実際の現場を見学し、講演を聴くことで、分離プロセスの理解を深める企画をしている。

3. 本部大会・支部行事関連行事

- ・ 化学工学会第 53 回秋季大会シンポジウム(分離プロセス部会:抽出分科会担当予定) (9 月)
分離プロセス部会シンポジウム(口頭)
分離プロセス部会ポスターセッション&実用分離技術ポスターセッション(ポスター)
他数件を予定

5. 出版物・特集号などの化学工学会出版への寄与

- ・ 会誌「化学工学」の年鑑 2022 における「分離操作」の取りまとめ(分離プロセス部会、膜工学分科会)

7. 部会ニュース・メールマガジンなどの発行

- ・ 部会 HP を随時更新し、部会会員への情報提供を強化する。
- ・ ニュースレターを年 1 回のペースで発行する。

熱工学部会

2. シンポジウム・講演会などの行事

- ・ 2022 年度総会 (3 月 16 日、ハイブリッド)
内容:2021 年度の部会の行事・決算報告, 2022 年度の行事予定・予算の審議等を行う
開催日:3 月 16 日
Web 総会:ハイブリッドにて開催
- ・ (公)日本伝熱学会主催第 59 回日本伝熱シンポジウムにおける
オーガナイズドセッション「化学プロセスにおける熱工学」合同企画 (5 月 18 日～20 日、岐阜)
内容:本部会とも関係の深い「化学プロセス」に関連した熱工学分野の研究発表を募集し、セッションを企画する。
日本伝熱学会員とも交流を深め、学術・技術面での情報交換を行う。
開催日:5 月 18 日～20 日
会場:長良川国際会議場(岐阜)
- ・ 2022 年度第 1 回熱工学部会研究会・総会 (9 月 14 日～16 日、信州大学)

内容:部会の活動内容の現状あるいは将来に関する議論を部会員間で行う。

開催日:化学工学会第 53 回秋季大会(9 月 14 日～16 日)期間中

会場:信州大学 長野(工学)キャンパス

- ・ 熱工学部会セミナー(1回/年) (11 月頃、岐阜)
内 容:熱工学に関連する重要かつ興味あるテーマを設定し、複数名の講師に講演を依頼するとともに、参加者間でテーマに関する議論並びに情報交換を行う。
開催日:11 月頃を予定
会場:岐阜を予定
- ・ 2022 年度第 2 回熱工学部会研究会 (11 月頃、岐阜)
内 容:部会の活動内容の現状あるいは将来に関する議論を部会員間で行う。
開催日:熱工学部会セミナーと同じ
会場:熱工学部会セミナーと同じ
- ・ 第 56 回 化学工学の進歩講習会(協賛) (12 月頃、名古屋)
開催日:12 月頃を予定
会場:名古屋を予定

3. 本部大会・支部行事関連行事

- ・ 化学工学会第 53 回秋季大会における「熱工学部会シンポジウム」 (9 月、信州大学)
概要:熱を取り扱う技術や課題について、分野横断的に情報交換を行いながら、持続可能な社会の実現に向けて、熱工学が果たすべき役割について考える。熱と関わる基礎・応用研究にとどまらず、装置開発および改善に関する実例の報告、問題提起などを広く募集する。
開催日:化学工学会第 53 回秋季大会(9 月 14 日～16 日)期間中
会場:信州大学 長野(工学)キャンパス
- ・ 化学工学会第 53 回秋季大会における部会横断シンポジウム「プラズマプロセッシングの新展開」 (9 月、信州大学)
概要:プラズマプロセッシングは新規材料合成や環境問題解決のための先端基盤技術として注目されており、プラズマによるナノ粒子合成、機能性薄膜の作製、表面処理に加え、有害物質処理などの幅広い分野に応用されている。本シンポジウムでは、プラズマプロセッシングの基礎と応用に関する討論をもとに、化学工学における新たな開を探る。
共催:反応工学部会、粒子流体プロセス部会
開催日:化学工学会第 53 回秋季大会(9 月 14 日～16 日)期間中
会場:信州大学 長野(工学)キャンパス

7. 部会ニュース・メールマガジンなどの発行

- ・ 部会ホームページにおける情報発信を強化するために、ホームページの内容を充実させる。

8. 特記事項

- ・ 熱工学部会賞
化学工学会第 53 回秋季大会における「熱工学部会シンポジウム」での発表者を対象とする。

化学装置材料部会

2. シンポジウム・講演会などの行事

- ・ 部会講演会(6 回/年) 分科会の会合時および総会時に開催予定

3. 本部大会・支部行事関連行事

- ・ 第 87 年会「化学産業技術フォーラム:高軽年化した化学装置の余寿命の評価およびその延長」(3 月 16 日～18 日)
- ・ 第 53 回秋季大会 (9 月 14 日～16 日)

4. 講習会・セミナーなどの啓発活動

- ・ 各分科会での研究会活動 各分科会において、研究会や見学会等を年 4 回目標に開催する

5. 出版物・特集号などの化学工学会出版への寄与

- ・ 化学工学年鑑、トピックスの執筆

7. 部会ニュース・メールマガジンなどの発行

- ・ 部会メールマガジンを適宜発行

8. 特記事項

- ・ 化学装置材料部会 2022 年度総会 (2 回／年)
- ・ 化学装置材料部会 2022 年度役員会 (2 回／年)